

る中で、現場で把握したニーズをヒントに今後はさらに実施内容を検討することが必要と考えています。

また、不登校や虐待等、困難事例に気づいた際の、関係

〔話題提供③〕

学ぶ環境が整っていない中高生に寄り添う

盛岡市福祉事務所

査察指導員

佐久山 久美子氏

就学支援事業開始のきっかけ

生活保護世帯の子どもたちの高校進学率が、非保護世帯よりも低いこと、また、進学しても中退するケースがあることがきっかけでした。

経済的に厳しい世帯の子どもが、学力が伴わずに私立高校へ進学することで一層経済的負担が増える状況を改善するため、平成25年4月から、子どもの支援に焦点をあてた「盛岡市就学支援事業」に取

事業実施状況と今後の展望

就学支援員3名が、家庭訪問や相談支援を実施。対象家庭と子どもたちの実態を徹底的に把握し、関係機関と連携を図りながら、学校を中退する前に原因を探つたり、中退後の選択肢を一緒に探つたり、様々な支援にあたっています。

日本では、子どもたちは義務教育等で教育を受ける権利

は保障されていますが、権利行使できる環境が整っていない家庭が存在します。そのことで、学びに集中できない、学校に行けない子どもがいるという現状を残念に思っています。平成26年10月現在、対象世帯の中高生のうち7割が事業に参加しています。学校に行かなければ経験で

機関との連携体制を整えることも課題です。

今後は、拠点での活動以外にも、将来の夢を描くきっかけになるイベントを企画実施していく予定です。

は保障されていますが、権利行使できる環境が整っていない家庭が存在します。そのことで、学びに集中できない、学校に行けない子どもがいるという現状を残念に思っています。平成26年10月現在、対象世帯の中高生のうち7割が事業に参加しています。学校に行かなければ経験で

きなことを、補うことまでは難くとも、子どもたちが「関わってくれる大人がいる」と感じることで前向きになつてくれるなどを願っています。

主役は子どもたち。子どもたちがどうしたら広げられるかという視点に立つて、これからも続けていきたいと考えています。

情報交換第2部 地域の資源を活用した協同型学び支援 ボランティア参画の可能性を考える

〔話題提供①〕

決断と対応の早いボランティアの参画

岩手県ボランティア団体連絡協議会 会長 加藤 隆男氏

ボランティアの歩み

40年前盛んだったボランティア活動は、施設慰問やイベント開催など非日常的なものでした。

阪神大震災をきっかけに、日常生活のすべてのことが、

ボランティア活動につながるという認識が広がり、単発的な活動から、生活に役立つボランティア活動をしようという流れがきました。以来、ボランティア活動の意味は重要性を増すとともに

多様化しています。
ボランティアの強み
ボランティア活動の強みは柔軟さと臨機応変さにあります。潜在的なニーズを掘り起し、新しいアイデアで対応できます。そして、公的な組織に比べ決断も対応も早いのが特色です。

一つの活動を継続するためのポイント

- ①どんな人が、どのように関わるのか考えること。
- ②魅力をどうやってつくつていかかること。どんな力があれば人は集まる。
- ③実施するための資金を生み出す方法を考えること。

必要な事業を継続していくためには、これら3つの課題をクリアする高い調整力を身につけることが必要です。

中高生の学習の場と居場所づくり

〔話題提供②〕

盛岡夜回りグループ一步一代表 後藤 敦博氏

学習支援に取組むきっかけ

ステップは、元々は路上生活者支援を行う任意団体として、平成23年6月に発足しました。

路上生活からアパートへ入居した方々の交流行事として、開催していた「お楽しみ会」で、福祉事務所の職員から、

これまでの成果と今後の課題・展望

の学習会を開催しており、学生ボランティアや元教員を含む社会人ボランティアがスタッフとして参加しています。

学力向上というよりも、様々な人と関わりの中で、社会性を育むことに重点を置いているため、学習会は、皆でお昼ご飯をつくるところからはじめています。

経済的な負担が大きく塾に行けない、学校には行っていなかったが基礎学力が乏しい中高生を対象に、盛岡市内で月2回

事業開始1周年のふり返りを実施した際、参加している中学生からもスタッフからも共通してあがつた成果は、参加者が人とのコミュニケーションを取れるようになつたこと、進んで勉強するようになつたことでした。多世代交流の場が、将来像を描くきっかけに（話題提供③）

保護者や教師以外の大人

保護者や教師以外の大人

話題提共③

本校では、全校生徒426名のうち41名が就学支援を受け、そのうちの14名が学習支援を希望し、何人かの生徒がこれまでに参加しています。

参加生徒からは、特に「年齢の近い大学生から勉強を教わったり、話ができて良かつた」との声が多く聞かれていました。生徒たちにとって、保護者や教師以外の大人と触れる貴重な場であり、将来の可能性を広げる場であると認識しています。

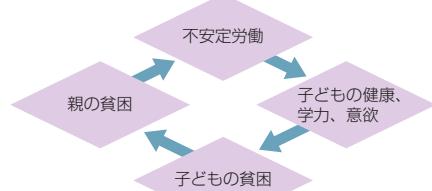
学習支援事業に参加する生徒たちの感想

の期待

子どもや家庭の状況・地域へ

矢巾町立矢巾中学校 校長 和田修氏

新たなセーフティネットの構築 貧困の世代間連鎖



(慶應義塾大学 駒村康平教授作成)



(医緑明会) 吉田消化器科内科医院
(学) 岩手医科大学
(社) 桜智徳会岩手清和病院
(有) タケダ うな竹
(有) 盛岡タイムス社
ブリヂストンタイヤ岩手販売(株)
三、三、三、商事(株)

学校でも子どもたちの寂しい気持ちを何とか補おうとしています。ですが、授業、部活動、生活指導、進路相談等、一人の教員が担う業務は幅広く、限界があります。学校に関わる教職員総数のうち、日本では教員の割合が8割以上なのに対し、諸外国、たとえばアメリカやイギリスでは5割ちょっとです。外国では教員は授業のみを担当し、外部支援者が心のケアや生活指導部活動等、授業以外の子どもの支援に関わっています。

を皆で共有しながら、子どもたちの可能性をどうやって伸ばしていくことができるか、知恵を出して考えることができるようになればと思っています。

進行 岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科 講師 櫻 幸恵氏

地域の中でも子どもを支えていくためには、制度的な支援、親の支援など様々な方法がありますが、一つの切り口として学習支援があるのだと思います。学習支援の効果には、学力の向上と、社会性の育成という2つの側面があります。

子どもたちのありのままの良さ、力を伸ばしていく取組みは、ひとつの団体ではできません。学校も、地域も、ボランティアも、大学も、行政も関係団体皆で関わって、子どもを育て、社会を育てていく意識を持つことがあります。子どもは日々成長します。必要な時機(タイミング)を逃さないで関わること、そして継続していくことがあります。必要な時機(タイミング)を逃さないで関わること、そして継続していくことがあります。今日はつながりをきっかけに、できることからはじめていきましょう。

子どものや家庭の状況・地域への期待 現代の子どもは、以前に比べ精神年齢が実年齢より幼いといわれています。見た目がたとえ大きくなっていたとしても、心では、家族の温かさ：会話を求めています。一方で、

ちよつとです。外国では教員は授業のみを担当し、外部支援者が心のケアや生活指導部活等、授業以外の子どもの支援に関わっています。

子どもの支援は、地域の方々と連携して取組みたいと考えています。学校の大変さ親の大変さ、子どもの大変さ

進行 岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科 講師 櫻 幸恵氏

地域の中でも子どもを支えていくためには、制度的な支援、親の支援など様々な方法がありますが、一つの切り口として学習支援があるのだと思います。学習支援の効果には、学力の向上と、社会性の育成という2つの側面があります。

子どもたちのありのままの良さ、力を伸ばしていく取組みは、ひとつの団体ではできません。学校も、地域も、ボランティアも、大学も、行政も関係団体皆で関わって、子どもを育て、社会を育てていく意識を持つことがあります。子どもは日々成長します。必要な時機(タイミング)を逃さないで関わること、そして継続していくことがあります。必要な時機(タイミング)を逃さないで関わること、そして継続していくことがあります。今日はつながりをきっかけに、できることからはじめていきましょう。

日本共産党岩手県委員会
日本労働組合総連合会岩手県本部
東八幡平病院
(医)正康会 平館クリニック
(医)真彰会 玉山岡本病院
藤根建設(株)

(株)興和電設
(株)広田薬品
丸王盛岡中央青果(株)
岩手スバル自動車(株)
岩手県労働組合連合会（いわて労連）
岩手中央酪農業協同組合